

国際交流つうしん



車いすフェンシング (P.2)



語学ボランティア (P.4)



はたらくための日本語 (P.3)

目

次

- P.2 千葉県開催のパラリンピック競技・車いすフェンシング
- P.3 はたらくための日本語
- P.4～5 事業報告(平成30年3月～6月)
- P.6 HPリニューアルのお知らせ/今後の行事予定
あなたの街の国際交流・協力団体 ～NPO法人上総掘りをつたえる会～
- P.7 JICA千葉デスクのページ
- P.8 東京2020オリンピック・パラリンピックを支えるボランティア募集

広告

15th Anniversary

水野外語学院

日本語で日本語を勉強します。
いろいろな国の人と一緒に勉強します。
赤ちゃんが言葉を覚えるように、
楽しく、自然に日本語が話せるようになります。

MIZUNOGAIGOGAKUIN

〒272-0133 千葉県市川行徳駅前4-19-14
TEL: 047-397-9645 FAX: 047-397-3078



広告

「日本語を教える」としたら **スリーエーネットワーク**



三橋麻子・丸山真貴子・
堀内貴子・西己加子 著
本体2,600円+税 B5判

**介護に関わる外国人の
ための日本語教材**

**はじめて学ぶ介護の日本語
基本のことは**

介護現場で働く外国人の数は今後ますます増えていきます。そのような方々が初級修了後から、豊富な例文やイラストで、現場をイメージしながら介護分野の語彙1,500語が学べる一冊です。

最新刊や教材の使い方セミナーの情報等は <http://www.3anet.co.jp/>

千葉県開催のパラリンピック競技・車いすフェンシング



NPO法人日本車いすフェンシング協会は、車いすフェンシングの普及を通して障がいのある人もない人も、ともに楽しめることを目標に活動する団体として、車いすフェンシングの日本代表選手の育成にも取り組んでいます。今年4月にカナダ・モントリオールで行われた2018 I W A S 車いすフェンシングワールドカップでは、史上最多となる銀メダル2個、銅メダル3個のメダルを獲得しました。東京2020パラリンピックに向けて、選手たちの飛躍と大会での活躍がますます期待されています。車いすフェンシングの競技やルールに親しみ、

会場となる幕張メッセで選手たちのサポートをしませんか。車いすフェンシング協会理事長の中村様に、競技について、また協会の活動や県民の皆さんに伝えたいことをお話いただきました。

障害のある人もない人も、ともに楽しもう！

NPO法人日本車いすフェンシング協会理事長

中村 元 裕



皆さんにとっては、馴染みの無いスポーツの代表格かもしれない「車いすフェンシング」競技ですが、千葉県の皆さんに競技を知っていただき、東京2020パラリンピックではぜひ、幕張メッセで大会を盛り上げていただきたいと思います。車いすフェンシングというと、車いすを動かしながら闘うというイメージを持たれる方が多いようです。しかし実際には、ピストと呼ばれる試合用の器具の上に2台の車いすを固定した状態で、そこにフェンサーが座って闘います。

選手の資格は、下肢に障害があるAクラスと脊椎・頸椎損傷のBクラスの、2つに分かれます。下肢に障害がある選手は、実際の生活では義足や補助具で歩くことができて、競技においては車いすに身体を固定して闘います。



フェンシング同様、車いすフェンシングにも、「フルール」（胴体の突きが有効）、「エペ」（全身有効）、「サーブル」（上半身の突きと斬りが有効）の3種目があります。それぞれの種目ごとに使う剣や、着用するジャケットも異なります。例えば、全身が有効面である「エペ」では車いすを突いた時に電気反応が起こらないように、金属の糸を編み込んだ生地で作ったスカートを腰から下に巻くのも特徴です。試合は予選3分5本先取で勝敗を決め、決勝トーナメントでは3分ごとに1分の休憩をはさみながら3ゲームを行い、15本先取で勝敗を決めます。

車いすフェンシングの面白さは、何と言っても「逃げ場の無い至近距離での激しい闘い」です。通常のフェンシングは14mのピストの上で、センターラインから2mずつ計4mの距離をとって構え、お互いに足を使って間合いをとりながら攻撃のタイミングを探ります。一方、車いすフェンシングでは、片方の選手が剣を持った手を伸ばした時、剣の先端が相手の剣を持つ手のヒジに届く、ぎりぎりの距離でピストを固定し、間合いを決定します。相手選手の剣先が目の前にあるほどの至近距離で試合がスタートする、まさに「間合いゼロ」。すばやく剣を操るコントロールと、闘うスピードが勝敗を分けるのです。車いすフェンシングの一流選手が剣を動かすスピードは、フェンシングの一流選手よりも速いと言われています。また、相手の攻撃を避ける為に、大きく上半身をのけ反らせるなど、車いすならではの身体の動きもあります。試合中のフェンサーは顔や頭を守るための金属マスクを被るため、遠くからだ表情が見えにくいのですが、闘いが進むにつれて重いピストが床から浮いたり、ひっくり返ったりすることもあります。フェンサーの感情が身体の動きに現れるような激しいファイティングは、迫力そのもの。ぜひ注目してみてください。車いすフェンシングは、障害のある人もない人も、同じ土俵で闘える数少ないスポーツです。この点を生かして競技人口を増やして行きたいと考えています。



車いすフェンシングを応援しませんか？HP、FACEBOOKにて活動内容を発信しています！

NPO法人車いすフェンシング協会

公式HP：<http://jwfa.jimdo.com/>



車いすフェンシング協会

検索





はたらくための日本語



EPA看護師・介護福祉士候補者への日本語教育の現場から

千葉県で働いている外国人の数は約5万人（H29年10月厚生労働省千葉労働局HPより）。前年に比べ、約25%増加しました。全国の約4%を占め、5年連続で増加しています。労働力不足が懸念されている農業、漁業、建設、サービス、介護などの分野で多くの外国人に就労してもらおうという国の動きもある中、国や民間団体による外国人労働者への日本語教育支援の取り組みが広がっています。外国人が日本で働くために必要な日本語学習サポートについて、私たちに何ができるか考えてみませんか？

歓迎 ベトナムの皆さん ようこそ幕張国際研修センターへ！

Chào mừng các bạn ứng viên Điều dưỡng, Hộ lý Việt Nam đến với Trung tâm Đào tạo Quốc tế Makuhari!

「ベトナム人EPA看護師・介護福祉士候補者」を対象に、6月15日から幕張国際研修センターにて、日本語研修が

行われました。平成26年から毎年実施されている研修に日本語会話練習の補助として、外国人受け入れの現場で、活動されたボランティアの方々に感想を伺いました。 ※EPAについてはp4を参照

今回参加しようと思ったきっかけは何ですか？

JICAで、ベトナムを訪問した際、親切にして頂いてベトナムが好きになりました。現在は市の介護相談員をやっており、よく介護施設を訪問しますが、介護職員が不足していて大変なようです。私も微力ではありますが、ベトナムの人達を支援しようと考えました。（Aさん）

小学校教師の後、2002年からタイやベトナムで日本語教師として、大学生に日本語を教えていた経験から興味を持ちました。（Bさん）



研修生に対して、どのような印象を持ちましたか？

研修生の方々は、非常に真面目でかつ熱心に日本語を話していました。日本全体が人手不足という問題を抱え、少子高齢化が異常なスピードで進行している日本にとって、真剣に考えなければならない問題だと感じています。（Cさん）

懐かしい家族にまた会えたようでとても楽しかったです。何よりも学生の学習への意欲と真剣さに圧倒されました。海外で働こうという目標をしっかりと持っているせいか、ベトナム国内の学生とは目の色が違いました。同時に日本という国を信頼し期待しているということも感じました。（Dさん）



外国人が働くためにどんな日本語を学ぶ必要があると考えますか？

今回の研修対象となっているベトナム人が日本で働くためには一般的な日本語の取得と同時にその職業独自の専門用語の習得と使用の能力を身に付ける必要があります。これはとても大変で努力を必要とすることだと思います。その中で、実際の働く現場の会話は文法どおりではない場合が多いし、いろいろな言い回しがあったり、スピードも速かったりして、うまくコミュニケーションが取れないことも多いと予想されます。ここに私たちボランティアの役割があると思われます。まずいろいろな年齢の日本人の話す速さや言い方の違いに慣れること、同意したり否定したり質問したりするときの会話のルールを知ること、それに併せて、会話を通じて日本人の暮らしや地理、産業などの知識の習得のお手伝いができればいいと考えています。何よりも私たちを通じて日本人は親切で信頼できるということを感じてもらうことが一番大切ではないかと思います。日本の労働力不足を補うための人材という一方的な考えではなく、お互いの国の発展と国民の幸せのために対等に力を合わせるという視点が必要ではないかと考えています。（Eさん）

ベトナムで、既に介護や看護師について大学で勉強した学生や、病院で働いていた資格のある看護師などが参加しているようですが、N2、N3の日本語能力の上に専門用語を学ぶので、かなりハードルは高いと思います。学生さんたちは、それなりの意欲と覚悟で来日していると思いますので、これからの専門職試験に合格し、日本で長く働けるといいと思っています。日本は若者が少なく、これから増えるばかりの老人医療にベトナムの若者の力を借りることになると思いますが、ベトナム人が幻滅して日本を去るようなことがないよう、労働環境や賃金など良い方向に改善されることを願っています。（Fさん）

千葉県国際交流センター 事業報告 (平成30年3月～6月)

◆中国語通訳ボランティア連絡会議を開催しました！ 3月28日

当センターが運営する外国人テレホン相談の中国語の相談は、自宅にスタンバイする通訳者を三者通話電話で繋いで通訳してもらいながら進めます。ITが発達した今日ならではの画期的な手法で、応用すればいろいろな可能性が広がります。通訳は当番制で、決められた日に待機してもらいます。相談に対する回答は相談員が返すので、通訳は言葉の受け渡しに徹するのですが、的確に通訳するには高度な理解力と正しい知識が必要です。連絡会議は、通訳者のみなさんが外国人に関わる最新の情報を習得する場として、活用してもらっています。



◆外国人相談者意見交換会 6月26日

千葉県の外国人人口が右肩上がりに増えている中(前年比9.67%)、県内で外国人相談窓口を設けている18市町村から担当者27名が集まり、定例の意見交換会を開催しました。入管法が改正に次ぐ改正で大きく変貌しているのを受けて、よりアップデートな情報を学ぶために、(公財)入管協会より講師を招いて「最新の入管行政」について話を伺いました。情報交換では、「少数言語への対応」について、各自治体に於ける工夫が披露されました。10数言語の専属通訳者がいつでも対応してくれる端末を導入して行政サービスの現場で活用している事例、iPhoneの音声通訳機能を活用している事例、ホームページに多言語翻訳機能を装備している事例、いずれもIT技術の躍進を感じさせる内容でした。サービス向上に向けてみなさん知恵を絞っているのが窺え、参考になりました。

◆国際フェスタCHIBA・今年度も神田外語大学で開催！ 5月27日

今年度の国際フェスタCHIBAは、「第14回幕チャリ×ソラビト」、「第2回コミュニティ・オープン・デイ」と同時開催で実施し、1500名の方にお越しいただきました。国際交流・国際協力に関わる全26団体が出展し、各団体の活動紹介のほか、世界各国の雑貨・料理・フェアトレード品等の販売、落語、着物の着付け、持続可能な開発目標(SDGs)についてのプレゼンテーション、オリンピック・パラリンピックに向けたボランティア説明会などを行いました。当日は天候にも恵まれ、世界の料理や音楽パフォーマンスを楽しんだり、各団体の日頃の活動への理解を深めたりする来場者の姿が見られました。出展団体や神田外語大学の学生や教職員の方々のご協力のもと、来場者に国際交流・国際協力について理解を深め、楽しんでいただけた1日となりました。



ボランティア活動報告～皆さん ありがとうございます！

事業ボランティア @ 国際フェスタCHIBA (5月27日(日))

「国際フェスタCHIBA」では、事業ボランティア6名の方々に、神田外語大学内の受付で、大学生と一緒に来場者へのプログラムの配布や、案内をしていただきました。活動終了後にも率先して片付けをしていただき、運営側も大助かりでした。休憩時間にはフェスタの様子を見学し、国際イベントを楽しむボランティアの方々の姿が印象的でした。



語学ボランティア @ 日本地球惑星科学連合2018年大会 (5月20日(日)～24日(木))

日本地球惑星科学連合2018年大会が、今年も幕張メッセ国際会議場で行われ、語学ボランティア22名の方々に、各エリア2名ずつのチームになって外国人来場者への受付や、会場案内などをしていただきました。



日本語ボランティア @ ベトナム人EPA 看護師・介護福祉士候補の日本語研修 (6月22日(金)～7月20日(金))

国と地域を指定して幅広い経済関係の強化を目指して、貿易や投資の自由化・円滑化を進めるEPA協定に基づき「ベトナムEPA看護師・介護福祉士候補者」の受け入れが、実施されています。平成26年度から経済産業省より日本語研修事業を受託された機関からの依頼を受け、候補者の日本語会話練習の補助として、今年度は日本語ボランティアの方、80名が活動しました。





千葉県国際交流センターのホームページを7月にリニューアル公開しました!!



スマートフォンやタブレット端末への表示対応、団体・日本語教室検索の機能が追加されたほか、英語、中国語、スペイン語の項目が、わかりやすく表示されるようになりました！在住外国人向けの情報提供にご活用ください！

**バナー
広告
募集中!**

千葉県国際交流センターのHPにバナー広告を掲載してみませんか？
詳細はお問合せください。

今後の行事予定

事業	内容	日程
外国人のための無料法律相談	外国人の生活上の法的問題に弁護士、行政書士が対応(原則第1月曜 行政書士は奇数月)	原則毎月第1月曜
インターンシップ受け入れ	県内大学の学生が当センターで業務を体験	8月
国際理解セミナー	一般県民に向け、国際理解を図る講座を開催	9月～10月
国際交流・協力等ネットワーク会議	民間国際交流団体や市町村国際交流協会担当者による情報交換	9月～10月
コミュニティ通訳研修	在住外国人の生活支援に役立つ、基礎的事項を学ぶ講座	10月～11月を予定
災害時外国人サポーター養成講座	災害時に外国人をサポートする人材を育成する講座	12月を予定
日本語ボランティア・スキルアップ講座	日本語ボランティアの指導力向上を図る講座	11月～12月を予定

あなたの街の国際交流・協力団体

NPO 法人上総掘りをつたえる会

代表理事 高橋 文代



完成した井戸の前でフィリピンの子供たちと

水の惑星と言われている地球ですが、この地球上には水に困っている人々がたくさんいます。私達は蛇口をひねり当たり前のように毎日水を使っていますが、当たり前ではない国がたくさんあります。

上総掘りをつたえる会は1981年6月に「国の文化財である上総掘りの先人の知恵を後世に伝えるとともに水の大切さを訴え水不足に悩む東南アジアの人々にその技術を伝承し、国際交流・国際協力に役立てる」という事を目的に設立しました。

活動をはじめて37年が過ぎました。当会の活動エリアは主にフィリピンの公立の小中学校です。やわらかい地層の所には上総掘りで井戸を掘り、岩盤など上総掘りで掘る事が難しい所には機械掘りで掘る事もあります。

当会は設立当初から先輩の上総掘り職人から若い会員に技術が継承され、先輩職人と若い会員とともにフィリピンの上総掘りメンバーに技術移転をしました。2005年の千葉県国際協力モデル事業の時には、掘削中に掘鉄管を穴に落としてしまい、1時間半位かけて引き上げました。掘るだけでしたら簡単な事ですが、掘鉄管を落としたり竹ひごがはすれたり…とアクシデントを解消する事が職人技で大変な事なのです。フィリピンの会員は掘削中のアクシデントもクリアできるようになりました。

今、日本国内に上総掘り技術者が少なく、日本人の後継者を育てて行く事が大きな課題になっております。当会には、40代の1名しかおりません。

「アジアの子どもたちにきれいな水を！」のスローガンを掲げて活動しておりますが、井戸ばかりではなく、2007年からは、水道やトイレ建設へと活動の幅が広がってきております。その他にも学用品・衣料品・給食を必要と思われる学校に支援しております。

これからも毎年井戸や水道を建設し、「命の水」を贈り続け、アジアの人々との交流を深め、少しでも生活向上の力になればと思っております。国内では、小中学校に水不足の国の現状と水の大切さの出前授業(今までに千葉大学・勝浦市中学校・木更津市小学校・千葉市など)をして行きたいと考えています。

「地球のすべての子どもたちに幸せを！」これが私たちの願いです。



フィリピン人ボランティアが掘っているところ

連絡先: 高橋 文代
TEL: 0438-63-1384
Email: kazusabori-society@jcom.home.ne.jp

千葉県国際交流センター 平成29年度事業結果

千葉県国際交流センターが実施した、平成29年度（平成29年4月1日～平成30年3月31日）の主な事業結果は、次のとおりです。各事業の詳細については、当財団HPでもご覧いただけます。<http://www.ccb.or.jp/ccbic/budget>

1 国際交流・国際協力・多文化共生社会づくり

(1) 情報提供事業

<ホームページによる情報発信>

- ・災害等に関する最新情報、在住外国人のための生活情報や相談業務、国際交流ボランティア制度、民間国際交流団体及び日本語教室、国際協力情報等を紹介しました。（HPアクセス数：78,489回）

<メーリングリストの運営>

- ・県民や民間国際交流団体、ボランティア等が、国際交流・協力等に関する情報を交換するための、メーリングリストを運営・管理しました。（参加者数：546名）

<会報「国際交流つうしん」の発行>

- ・センターの事業や民間国際交流団体の活動等を紹介しました。（年3回／発行部数：10,000部）

<「国際交流伝言板」の発行・配信>

- ・民間国際交流団体や、行政機関の事業（イベント・募集）等を、多言語（日本語・英語・中国語・スペイン語）で、情報提供しました。（年3回）

<千葉県外国人学生住居アドバイザー事業>

- ・千葉県と連携して、外国人学生に対し住宅に関する情報を提供しました。（アドバイザー：42店）

(2) 在住外国人支援事業

<外国人テレホン相談>

- ・多言語（日本語・英語・スペイン語・中国語）による電話相談を実施し、在住外国人からの日常生活相談に広く応じました。（相談件数：828件）

<外国人のための無料法律相談>

- ・弁護士等を招いて、外国人が抱える法律問題の解決に向け支援しました。（原則月1回・7月、1月は土曜開催／相談者数：延42名）

<多文化共生サポート制度の運営>

- ・医療、福祉、教育等による生活支援を要する在住外国人に対し、語学ボランティアを紹介。必要に応じてボランティア活動費の支援を行いました。（紹介件数：34件）

<災害時外国人サポーター養成講座>

- ・災害発生時に支援者として活躍できるサポーターを養成する研修を、千葉県等と共催で松戸市において開催しました。（11月・全2日／参加者数：延121名）

<通訳ボランティア養成講座>

- ・東京オリンピック・パラリンピックに向け県内での外国人支援体制の充実を図るための通訳ボランティアを養成する講座を実施しました。（7月～2月・全3日・6会場で実施／参加者数：209名）

2 多文化共生時代のネットワークづくり

(1) ボランティア制度等の運営

<国際交流ボランティア制度の運営>

- ・国際交流に参加するボランティアを募集・登録するとともに、活動の場を紹介しました。（平成30年3月末現在・ボランティア登録者数：語学1,579名・ホストファミリー335家庭・文化255名・日本語126名、事業88名）

(2) ボランティア育成・国際理解促進のための講座

<日本語ボランティア基礎講座 in 千葉>

- ・在住外国人に日本語を教えながら交流したいと希望するボランティアを対象に、千葉市で開催しました。（6～8月・全6日／参加者数：延195名）

<日本語ボランティア・スキルアップ講座>

- ・日本語ボランティアとして更なる資質向上を目指す方を対象に、講座を開催しました。（12月・全2日／参加者数：延146名）

<コミュニティ通訳研修>

- ・通訳ボランティアが行政サービスの基礎的知識について学ぶ研修を開催しました。（10月～11月・全4日／参加者数：延78名）

<国際理解セミナー>

- ・外国の文化や、考え方について理解を促進するための講座を開催しました。（8月、10月、2月・計3回／参加者数：延299名）

<国際協力パネル展>

- ・国際協力や国際理解の意識を高めるため、関係機関と合同でパネル展を実施しました。（4月）

<ちば出前講座>

- ・JICAと連携し、JICAボランティアOB／OGあるいは、在住外国人を学校や公民館等へ紹介し、開発途上国や出身国での体験等を語ってもらう講座を実施しました。（開催件数60件、参加講師：JICA関係者32名、在住外国人39名）

<国際フェスタCHIBA>

- ・神田外語大学にて、国際交流・協力団体の活動紹介及び、ステージパフォーマンス等を行いました。（5月／出展団体：26団体・来場者数：1,500名）

(3) 様々な主体との交流・調整事業

<国際交流・協力等ネットワーク会議>

- ・県内の行政機関、民間国際交流団体や、地域の国際交流協会等を対象に、実施事業の周知や、活動に関する情報・意見交換のための会議を実施しました。（10月／参加者数：54名）

<外国人相談担当者意見交換会>

- ・在住外国人からの生活相談等に応じている担当者を対象に、相談に役立つ知識の習得と情報共有、及び意見交換を行いました。（7月／参加者数：19名）

<外国につながる子どものための日本語ボランティアの集い>

- ・日本語を母語としない子どもを支援するボランティアに対し、講演等を実施しました。（2月／参加者数：37名）

<国際交流サロンの運営>

- ・センター内に国際交流・協力を目的とした活動や交流の場を提供しました。（利用回数：127回／利用者数：878名）

<インターンシップ受け入れ>

- ・学生の職業意識の向上及び国際交流・協力に関する理解促進を図るため、県内の大学から1名の学生をインターンとして受け入れました。（8月）

<国際交流事業への後援>

- ・県内の国際交流団体等が実施する9件の国際交流事業に対し、後援名義の使用承認を行いました。
- ・ブラジル、アルゼンチンの千葉県人会に対し、千葉県と共に活動に対する補助を行い、交流を推進しました。

<各種関係機関・団体との連携>

- ・法人・任意団体の構成員として、国際交流・協力の推進に参画しました。
- ・各関係機関との情報交換等を目的とした会議に出席し、情報・意見交換及び、ネットワーク形成の強化に努めました。
- ・県内の国際交流団体が発するイベントに参加協力を行いました。

NPO／NGO向けJICA事業の紹介

JICAが実施する「市民参加事業」には、日本のNGO／NPO等の団体の皆さまにご参加いただくことができる様々な事業があります。具体的には、NGO／NPO等の人材能力強化のための研修（PCMセミナー）、国際協力に関心のある市民の皆様、法人・団体の皆様からの寄附金を、NGO／NPO等の海外活動の支援に充てる事業（世界の人びとのためのJICA基金）、そして、NGO／NPO等の団体が有する経験や技術を活かして自ら企画した開発途上国への協力活動を、JICAと 共同・協働で実施する草の根技術協力事業です。

【国際協力活動を担当する方のための「PCM」手法を活用した事業マネジメント研修】

PCM（Project Cycle Management）手法は、開発プロジェクトの計画立案・実施・モニタリング・評価のための手法で、JICAをはじめ多くの開発援助機関で用いられています。JICAでは、全国各地で（主にJICA国内拠点会場）、このPCM手法の活用による国際協力事業の計画・立案の方法を学ぶコース（基礎編）と、モニタリング・評価の方法を学ぶコース（実用編）を実施しています。定員に限りがありますが、受講料は無料です。

HP：<https://www.jica.go.jp/tokyo/event/2018/ku57pq0000iwwal.html>

- 【基礎編】 2018年10月12日（金）1日間 JICA東京国際センター 本館 講堂
2018年11月1日（木）1日間 新潟県長岡市（調整中） ※全日程9：30～18：00
- 【実用編】 2018年10月13日（土）～14日（日）2日間 JICA東京国際センター 本館 講堂
※全日程両日とも9：30～18：00 ※2日間通しでの受講が前提となります。
- 定 員 基礎編・実用編、いずれも定員30名程度（先着順）
※一団体から複数名応募をされる場合は、団体内での優先順位をお知らせください。
- 受講料 無料（受講に係る旅費等については受講者負担となります。）
- 申込方法 上記URLをご参照の上、各研修日の1週間前までにお申込みください。

【世界の人びとのためのJICA基金】

「世界の人びとのためのJICA基金」では、「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向けて、開発途上国・地域の人びとを支援する活動提案をいただき、採択された活動に対して1案件あたり100万円を上限として支援するプログラムです。

■募集期間：例年秋～冬

■対象団体：開発途上国・地域の開発に貢献する非営利活動を、2年以上にわたり継続的に行っている団体または、個人

HP：<http://www.jica.go.jp/partner/private/kifu/09.html>

【草の根技術協力事業】

＜草の根パートナー型＞（国際協力の経験が豊富な団体向け）

■提案受付：年1回／事業規模：総額1億円以下／実施期間：5年以内

■対象団体：日本国の法人格を有するNGO等非営利団体、大学、公益法人、民間企業（非営利目的）等

＜草の根協力支援型＞（国際協力の第一歩を踏み出す団体向け）

■提案受付：年1回／事業規模：総額1千万円以下／実施期間：3年以内

■対象団体：任意団体を含むNGO等の非営利団体、大学、公益法人等（民間企業不可）

＜地域提案型／地域活性化特別枠＞（自治体と協力して実施する場合（提案団体は自治体です））

■提案受付：年1回／事業規模：3,000万円／6,000万円／実施期間：3年以内

■対象団体：自治体（ただし、実施団体は自治体が指定するNGO/NPO、公益法人等団体でも可）

HP：<http://www.jica.go.jp/partner/kusanone/index.html>

千葉県国際交流センター内 JICA千葉デスク 国際協力推進員 永井 大策
TEL：043-297-0245 FAX：043-297-2753 E-mail：chiba-desk_nagai@friends.jica.go.jp



JICA CHIBA DESK

検索

JICA千葉デスク Facebookページ

皆さんの「いいね！」をお待ちしています。

HOST VENUE